

関東学院大学 vs 神奈川大学

6月15日(日)
15:30K.O.
日体大G

前期1-2位対決となったこの試合は、今節最大の注目カード。アミノバイタル杯はお互いに1回戦敗退となっており、この試合への準備は万端であろう。

神大は、第9節で今季初黒星のあと、第10節では法大を3-1で下した。しかし、アミノバイタル杯では1回戦で産能大によもやの敗戦。しかもスコアは1-4という屈辱的なものだった。前半は0-0。就職活動等でDFラインの中心選手を欠いていたという要因はあったが、64分に先制したあと75分から80分までのわずか5分間に4点を奪われての逆転負けは、大いに反省点がありそうだ。ただ、この敗戦は逆に言えばリーグ戦に対しては良い教訓を得たとも言える。第10節で徐々に複数得点を奪い、神奈川県天皇杯予選を含め今季既に2勝を挙げていた産能大に対して、危機感が薄れていた面もある。3年ぶりの1部を視野に、後期に向け引き締め直すとともに、前期の天王山を制して終わりたい。

対する2位の関学大は第10節、日体大と対戦して2-2のドロー。先に2点を許す試合展開は「堅い守備を誇るチームに先制点を与えると厳しい試合になることが身にしみてわかった」(石村大監督)という内容で、引き分けに持ち込んだのは御の字とも言える。しかし、

「先にとらせないために慎重にプレーしなければ」(石村監督)と臨んだはずのアミノバイタル杯では奇しくも同じ日体大と対戦し、再び先制点を許して1-3で敗れた。今節は、リーグ戦では安定感を見せてきた関学大にとって負けの許されない最も重要なゲーム。神大の攻撃力を抑えて、首位に勝点で並ぶことができるか注目だ。

<出場停止>南祥巧(神大)
<昨年の対戦>前期/関学大0-2神大、後期/関学大2-3神大

関学大		神大	
25. 亀井	8. 普光院	10. 伊東	2. 湯澤
3. 原島	33. 萱沼	7. 長野	6. 前田
10. 土館	7. 太田	24. 鈴木	12. 黒沢
1. 井田		11. 星	16. 武田
34. 山口	22. 井上	23. 西田	13. 内野
32. 木村	11. 中村	3. 高木	

日本体育大学 vs 東洋大学

6月15日(日)
17:50K.O.
日体大G

こちらは、アミノバイタル杯で2回戦敗退を喫したチーム同士の対戦。7位・日体大と3位・東洋大との対戦だが、その勝点差はわずか2であり、昨季1部チーム同士の意地がぶつかり合う緊迫したゲームとなるだろう。

まずは日体大。リーグ戦は連勝スタートこそ切ったものの、第3節から4試合勝利なし、中心選手にケガ人が続出など苦境に立たされており、順位も7位まで後退してしまった。第10節では徐々に複数得点を記録したものの、2位の関学大を相手に2点のリードを守り切ることができず、引き分けに終わった。ただ、関学大との連戦となったアミノバイタル杯1回戦では、後半アディショナルタイムに勝ち越して3-1で勝利(2回戦で国士大にPK戦で敗退)。少ないチャンスを得点につなげる決定力は、少しずつだが上がってきている。今節は何としても勝って、上位との差を詰めておきたい。

一方の東洋大は、リーグ戦序盤でつまづき思うように勝点を積み上げられず苦戦していたが、第9節終了時には今季最高の3位まで順位を上げてきた。第10節では青学大と1-1で引き分け、アミノバイタル杯では1回戦で東農大に1-0、2回戦では流経大にPK戦で敗れたものの1-1と苦しみ、得点数は少ないものの堅く守

って少ないチャンスをモノにする東洋大らしい戦い方がコンスタントに発揮できるようになってきた。ただ、青学大戦は先制逃げ切りの得意なパターンに持ち込みながら追い付かれてドローに終わり、勝ち切れない課題は残った。「昇格を考えると残り1試合は非常に大事。最後は勝ち切って上位との差を縮めたい」(古川毅監督)。

<3回警告>阿部潤(日体大)、小山大貴(東洋大)
<昨年の対戦>前期/日体大3-1東洋大、後期/日体大2-2東洋大(1部リーグ)

日体大		東洋大	
2. 高野	10. 阿部	28. 仙頭	16. 石坂
13. 増谷	23. 小泉	4. 郡司	15. 小山
21. 馬場	18. 川戸	18. 遊馬	1. 浅沼
	33. 輪笠	7. 斉藤	
	29. ンドカ	13. 郡司	5. 田口
	11. 小山	10. 平石	24. 池田
6. 赤平			

* 予想布陣は第10節の試合を参考に作成しています*

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.11

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



勝点3差で1-2位対決!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは、アミノバイタル杯による3週間の中断期間を経て、ついに前期最終節を迎えた。第10節を振り返ると、ともに第9節で今季初黒星を喫した神大-法大は3-1で首位の神大に軍配が上がり、日体大と2-2で引き分けた2位・関学大を再び勝点3差に突き放した。上位陣では東洋大-青学大も1-1で引き分け、その間に産能大を1-0で下した拓大が4位に食い込んできた。また、東農大が平国大に1-0、日大が東学大に2-0と久々の勝利を飾った。前期最終節は図らずも1-2位対決となり、首位を走ってきた神大が独走態勢を築くのか、関学大が並ぶのか大きな注目を集める。

得点ランキング		アシストランキング	
7: 星子 直哉 (平国大)	5: 伊東 純也 (神大)	4: 萱沼 優聖 (関学大)	3: 全10名
6: 中村 瞬 (関学大)		大森 勇希 (拓大)	
5: 伊東 純也 (神大)		上長 次郎 (産能大)	
4: 萱沼 優聖 (関学大)			
3: 木村 魁人 (関学大)			
2: 岡村 洋也 (産能大)			
1: 全5名			

なお、アミノバイタル杯では、2部リーグ所属チームでは青学大が4位、法大が6位となり、8月に開催される総理大臣杯への出場を決めている(出場枠6)。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第10節終了時)

順位	2部	神大	関学大	東洋大	拓大	青学大	法大	日体大	東学大	東農大	日大	産能大	平国大	勝数	負数	分点	得失点	得失点差	勝点
1	神大	6/15	0●1	4●0	2△2	3○1	0△0	3○1	3○0	1○0	4○0	5○3	7	1	2	25	8	17	23
2	関学大	日体大G	1●2	2○0	1●4	2○1	2△2	3○0	2○1	4○2	3△3	5○0	6	2	2	25	15	10	20
3	東洋大	1○0	2○1	0●2	1△1	0●2	6/15	0●1	1○0	0●1	4○0	3○2	5	4	1	12	10	2	16
4	拓大	0●4	0●2	2○0	3△3	0●3	2○0	0●3	1○0	2○0	1○0	6/14	5	4	1	11	15	-4	16
5	青学大	2△2	4○1	1△1	3△3	2△2	2○0	0●2	6/14	2○1	0●1	1△1	3	2	5	17	14	3	14
6	法大	1●3	1●2	2○0	3○0	2△2	0△0	6/14	1○0	4△4	2△2	0△0	3	2	5	16	13	3	14
7	日体大	0△0	2△2	日体大G	0●2	0●2	0△0	1○0	1△1	0△0	4○1	2○1	3	2	5	10	9	1	14
8	東学大	1●3	0●3	1○0	3○0	2○0	法大G	0●1	0●1	0●2	1△1	3○2	4	5	1	11	13	-2	13
9	東農大	0●3	1●2	0●1	0●1	法大G	0●1	1△1	1○0	1△1	5○0	1○0	3	5	2	10	10	0	11
10	日大	0●1	2●4	1○0	0●2	1●2	4△4	0△0	2○0	1△1	6/14	0●2	2	5	3	11	16	-5	9
11	産能大	0●4	3△3	0●4	0●1	1○0	2△2	1●4	1△1	0●5	産能大G	6○4	2	5	3	14	28	-14	9
12	平国大	3●5	0●5	2●3	産能大G	1△1	0△0	1●2	2●3	0●1	2○0	4●6	1	7	2	15	26	-11	5

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

自分のフィールドを探そう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

法政大学 VS 東京学芸大学

6月14日(土)
11:30K.O.
法大G

お互いに第10節で黒星を喫し、順位を落としてしまったチーム同士の対戦。しかし、法大はアミノバイタル杯6位で2年連続の総理大臣杯出場を決め、東学大も中大を破り2回戦進出と健闘するなど、どちらも復調の兆しは見える。前期最終節をモノにするのはどちらか。

第9節で今季初黒星を記録した法大は、第10節も神大に1-3で敗れてリーグ戦は連敗中。第9節まで負けなしだったとはいえ、8試合のうち5試合がドローと、もったいない勝点を落としてきた。ポゼッション率が高いが、リーグ序盤のような爆発的な得点力が少し影を潜めていることと、勝ち切れない勝負弱さが課題であった。その点、アミノバイタル杯では1部の3チームを破り、特に総理大臣杯出場を賭けた早大戦では延長戦で勝利するなど粘り強さが出てきたのは明るい材料。リーグ戦最後の1試合、90分で勝ち切る試合ができるか。

一方の東学大は、リーグ戦中盤で勝利から遠ざかり、第10節では11位の日大に0-2で敗れて8位まで後退してしまった。リーグ戦当初は前線の選手の流動的な動きが攻撃のバリエーションをつくり出していたが、攻守のバランスが崩れて失点が重なり、得失点差もついにマイナスに。しかし、アミノバイタル杯では敗れたとはい

え専大に0-0(PK戦で敗退)と、ここのところ課題となっていた守備でも粘りを見せた。例年のごとく教育実習によるレギュラーメンバーの欠場などにも苦しめられているが、これ以上順位を落とすわけにはいかない。勝点差は少ないだけに、この1試合を大事にしたい。

<3回警告>西室隆規・青島拓馬(法大)、永井雄介(東学大)

<昨年の対戦>前期/法大1-0東学大、後期/法大1-1東学大

法大	東学大
2. 永戸	5. 廣木
16. 青島	10. 佐々木
27. 山田	11. 五十嵐
26. 伊藤	4. 脇本
18. 鈴木	6. 藤野
9. 相馬	1. 須賀
25. 西室	8. 菅
3. 宗近	18. 久保
8. 三田	3. 久司
6. 星	16. 富澤
	2. 吉田

産業能率大学 VS 日本大学

6月14日(土)
11:30K.O.
産能大G

今季、関東2部リーグへ昇格してきたチーム同士の対戦。ここまで11位と10位、同勝点とお互いに苦勞している感も否めないが、ともに引き分けも3と、それなりに粘りも見せている。昨季の対戦は日大が勝利しているが、アミノバイタル杯で神大を撃破した産能大も上向きであり、意地のぶつかり合いとなりそうだ。

その産能大は、第10節では拓大に0-1で敗れ、加藤望監督は“実力的に拮抗したチームとの戦い方”について「リアクションではなく、自分たちからアクションを起こしていない」と苦言を呈した。関東リーグ初挑戦である今季、昨季上位チームとの対戦では大量点を取られながらも思い切りの良いプレーを少しずつ見せてきていたものの、五分五分の戦いとなった拓大戦では攻守ともメリハリを欠き、相手の豊富な運動量の前に屈した。アミノバイタル杯では神大を4-1で破る金星を挙げたが、これも思い切りの良さが出た結果でもある。今節はともに昇格してきた同期のライバルが相手だけに、先に主導権を握る戦いができるかが鍵だ。

一方の日大は、開幕戦勝利のあとなかなか結果が出ていなかったが、第10節で東学大を2-0で破り、久々に今季2勝目を挙げた。徐々に失点は少なくなっていた

が、得点を取れずに苦しんでいただけに、この日は試合開始2分の先制点が効いた。「まずは守備がはまらないと蹴ってばかりになる。声も出て、よくかみ合っていた」(川津博一監督)。アミノバイタル杯は東国大に0-1で敗れたが、守備から攻撃にかかる精度を上げ、連勝で前期を終えることができるか。

<3回警告>楠元秀真・須永亨・越智大和(産能大)
<昨年の対戦>産能大0-1日大(関東大会予選リーグ)

産能大	日大
32. 上長	16. 榊原
12. 齋藤	14. 成瀬
6. 遠藤	3. 奥村
33. 浜下	43. 高山
34. 越智	13. 中野
37. 見留	11. 齋藤
31. 安田	21. 小淵
36. 須永	10. 小林
4. 楠元	2. 長谷川
17. 岡村	7. 廣田
25. 渡辺	36. 川島

青山学院大学 VS 東京農業大学

6月14日(土)
13:50K.O.
法大G

5位につける青学大と、第10節で5試合ぶりの勝利を収めた東農大との対戦。青学大はアミノバイタル杯で3連勝し調子を上げたが、9日間で5試合という過密日程で疲れの影響も懸念される。昨季は対戦成績負けなしの東農大が、今季も勝点を奪うことができるか。

青学大は第10節、東洋大と1-1で引き分けた。リーグ戦序盤では低迷もありながら、第9節終了時ようやく今季初の連勝によって順位を上げ、上位争いが視野に入ってきたところだったが、試合巧者の東洋大の前に引き分けどまり。しかし、「点を取るまでの過程が課題。アミノバイタル杯では最終的にきちんと点を取るという過程を再確認し、ステップアップしたい」と宮崎純一監督が話していた通り、アミノバイタル杯では1部チームとも堂々と渡り合って得点を奪うなど最高の結果を残してきた。前期最終節となる今節は、昨季勝っていない東農大が相手だが、後期しっかりと上位争いをするためにも勝ち切って終わりたいところだ。

その東農大は第10節、平国大に1-0で勝利して順位を一つ上げた。最下位とはいえ積極的に攻撃を仕掛けてくる平国大に対し、守備を固めて少ないチャンスを狙う戦法で失点を防ぎ、57分に奪った1点を守り切った。

少ないながらも攻撃に入った時の集中力は、「気持ちも出ていたし、ボールを持った選手を追い越す動きも出ていた」(廣本達也コーチ)と評価できるものだった。しかし、アミノバイタル杯では東洋大に0-1の敗戦。今節も、相手の攻撃の芽を摘んで素早く攻撃に転じることを徹底し、ゴール前まで運ぶシーンを多くしたい。

<3回警告>金裕志・中西孝太・小田原貴(東農大)

<昨年の対戦>前期/青学大1-1東農大、後期/青学大1-2東農大

青学大	東農大
17. 諸井	2. 中西
7. 荒木	13. 岡庭
3. 御牧	15. 小田原
14. 伊藤	25. 金
10. 関谷	9. 相川
27. 角宮	14. 石川
1. 高橋	1. 矢口
33. 山田	10. 濱田
5. 京谷	5. 櫻岡
11. 恵	8. 佐々木
2. 堤	3. 加藤

平成国際大学 VS 拓殖大学

6月14日(土)
13:50K.O.
産能大G

最下位に苦しむ平国大と、4位まで順位を上げた拓大との対戦。なかなか思うように勝点がつかない平国大に対し、拓大はリーグ戦序盤の暗雲を完全に払しょくして上位に顔を出した。前期最終節はどちらに軍配が上がるか。

平国大は、第9節でようやく今季初勝利を挙げたが、第10節では東農大に0-1で敗れた。今季は、試合全体を見れば主導権を握る時間も多いながら、ワンチャンスで得点を奪われて勝点を逃すという試合が続いており、東農大戦もまさに典型的な敗戦であった。しかし、失点が減っているのは確かで、アミノバイタル杯1回戦でも桐蔭大を1-0で破った(2回戦で駒大に0-3の敗退)。西川誠太監督は、東農大戦の試合後に「あのような形で点を取られるのはよくある。点を取られたことより、取れなかったことをどう考えるかが大切」と話した。リーグ戦は1勝にとどまっているが、後期での反撃に向けて結果にもこだわる前期最終節としたい。

対する拓大は、第10節でも産能大に1-0で勝利し、2連勝で8位から4位にジャンプアップした。低迷した序盤戦とは一変し、運動量が格段に上がって守備面での粘り強さが身につけてきたことが好調の大きな要因だ。

産能大には、特に後半は攻め込まれる時間帯が多かったが、玉井朗監督も「守備が落ち着いてきて、お互いにカバーし合えるようになった」と評価する。アミノバイタル杯では青学大にPK2本で残念ながら敗れたが、今節をモノにして久々のリーグ戦での上位争いを目論む。
<出場停止>谷川貴也・穂積諒(拓大)：3回警告/小松崎雄太(平国大)、多田和明・三浦勇人(拓大)
<昨年の対戦>前期/平国大3-2拓大、後期/平国大2-1拓大

平国大	拓大
33. 平野	26. 新山
34. 押山	24. 多田
2. 増田	27. 森川
5. 鎌田	6. 紙谷
1. 荒川	15. 谷之口
32. 増田	21. 佐川
9. 星子	
17. 尾林	10. 柴田
26. 小松崎	20. 河野
7. 柏俣	13. 三浦
11. 千葉	16. 大森
	34. 緋田